

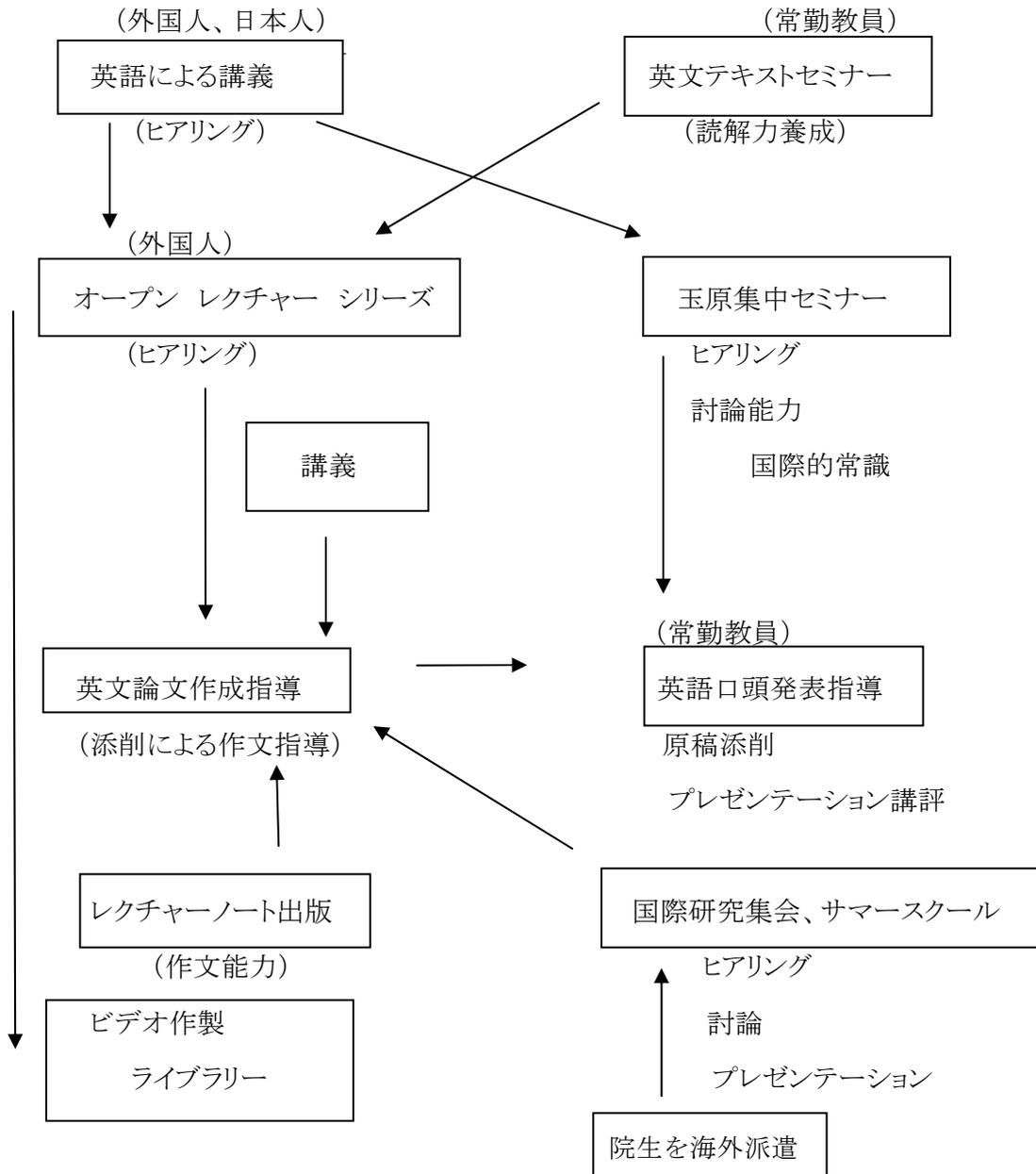
## 平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	東京大学	整理番号	b008
1. 申請分野(系)	理工農系		
2. 教育プログラムの名称	英語による数学研究発表・討論の能力開発		
3. 関連研究分野(分科)  (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 数学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (数論、代数幾何、位相幾何、応用数学、関数方程式、)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 <small>([ ]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)</small>	(主たる研究科・専攻名) 数理科学研究科・数理科学専攻[博士前期課程] 数理科学研究科・数理科学専攻[博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 桂 利行	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>東京大学は、世界のリーディング・ユニヴァーシティとして、大学院教育において「多様な専門分野に展開する研究科、附置研究所等を有する総合大学の特性を活かし、研究者および高度専門職業人の養成のために広範な高度専門教育システムを実現する」(東京大学憲章)ことを使命とし、中期目標・中期計画においては、「未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富んだ国際的に活躍できる研究者および社会の先頭に立つ人材の養成」を大学院教育の目標に掲げている。東京大学は、こうした観点から、今回の「魅力ある大学院教育」イニシアティブを、①新しい知の統合や学際的学融合的な新分野の創成とその大学院教育への還元、②研究の高度化と高度職業人養成、社会的ニーズに応じた高度の実践力をもった人材養成との結合、③研究と教育の国際化のいっそうの促進、④大学院教育における学生の能動性のいっそうの発揮、などの努力に飛躍をもたらす機会と位置づけている。本プログラムの実施をサポートする全学的施策を講ずる他、2年間のプログラム終了後も、当該研究科・専攻の自主的な努力に加え、全学的なレビューを経て大学としても資源を投入するなどの努力を集中して継続することをめざす。</p>			

機 関 名	東京大学	整理番号	b008
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>数理科学研究科では、セミナーでは英語テキストを使用し、さらに院生の論文発表も原則として英語でさせてきた。指導教員は院生の英文論文執筆に際しては添削、また口頭発表の前には予行演習による指導を行ってきた。これと平行して、外国人の常勤教員2名および外国人客員教員1名による英語授業や、談話会における英語講演などで生きた英語に接する機会を設けている。海外からのビジターも毎年約100名を数え、講演会や国際会議を通じて、院生に世界最先端の研究にふれる機会を与えている。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>上述のように個別的英語の訓練への努力は続いているが、英語によるコミュニケーション能力を飛躍的に高めるために、海外で行われる国際会議に院生を派遣し、世界の研究にじかにふれる機会を与えることは最も効果的である。また、国内においても、英語による少人数でのインテンシブコースが最も効率がよい。</p> <p>そのための具体的取組として、以下のプログラムを組む。</p> <p>①優秀な院生を選抜し、海外の国際会議、サマースクールに派遣する。現在、アメリカの数学研究所MSRIおよびカナダの数学研究所PIMSを含む環太平洋数学ネットワーク構想が企画されており、本年10月13日～16日にカナダのBanffで行われるフォーラムに研究科長が出席予定である。大学院生の交流も話し合われる予定であり、本プログラムを用いた交流が可能である。また平成18年夏にはフランスのIHESで大学院生のためのサマースクールが企画されており、この英語によるサマースクールにも本研究科の斎藤毅教授が中心的役割を果たしており、大学院生教育への活用を期待している。</p> <p>②オープンレクチャーシリーズ: 外国から教員を招き、大学院生のために英語による集中講義を行う。重要なテーマに関する日本人教員による英語の集中講義も企画する。</p> <p>③玉原集中セミナー: 群馬県沼田市玉原地区にあるセミナーハウスに、外国人講師2～3名、日本人教員2～3名、大学院生8～12名程度が一週間程度宿泊し、英語しか使えない環境下で特定のテーマについて午前2時間、午後3時間、夜1時間討論を行う。講義の半分は院生が行う。(Intensive seminar, Tambara)。分野を変えて、約一週間のコースを平成18年度に4回開催する。</p>			

6. 履修プロセスの概念図



機 関 名	東京大学	整理番号	b008
<p data-bbox="165 203 587 232">&lt; 審査結果の概要及び採択理由 &gt;</p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 922 633 952">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="170 972 1430 1189" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="170 972 1430 1046">・国際通用性を目標に掲げ、英語力のある数学研究者を育成する取組であり、日本の数学研究を国際的に知らしめる上で現実的な取組と言え、実現性も高い。</li> <li data-bbox="170 1066 1430 1189">・当研究科は、数学分野で優れた指導者が多く、創造性のある優秀な人材を輩出してきた十分な実績があるが、教育成果を学生の優れた資質に依存する度合いが大きいと思われる。教育の実質化により、さらに教育成果を高めることが期待される。</li> </ul>			